

今回のテーマは【常時装用】

暑い日が続いていますね。今年の暑さは、まだまだ続くようです。感染リスクを下げるためにマスクの装着もあり、熱中症には十分に気をつけていきましょう。

さて、今回のテーマである「常時装用」。これは、マスクではなく、補聴器や人工内耳のことです。本校に通っているお子さんのほとんどは、学校でも家でも、入浴時を除いて朝起きてから寝るときまで、補聴器や人工内耳を装用していることでしょう。難聴児には、いえいえ難聴者には、この「常時装用」がとっても大事なのです。

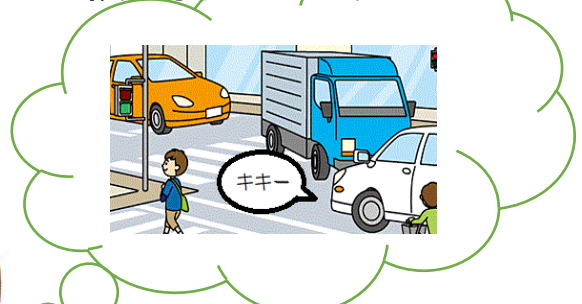
① 環境音が気にならなくなる

会話だけがきこえる補聴器はありません。周りの音もそれなりにきこえないと、危険察知もできません。

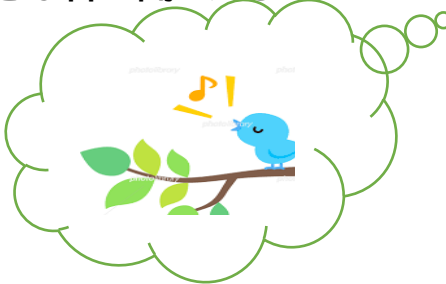
言葉をはっきり届けてくれる



危険の察知がしやすくなる



小さな音が聞こえる



よりいい音でテレビや電話を



補聴器は常時装用していると、そういった環境音が聞こえるけれども気にならなくなってきます。これは、脳に音の記憶が残るためです。その記憶を残すためには、1日11時間、3か月～6か月の装用が必要といわれています。ですから、「家の中は静かだからつけなくてもいい!」と必要なときだけ使用するといった使い方では、いつも周りの音がやかましいということになります。

ぜひ、補聴器や人工内耳の常時装用をして、家の中でも、通学途中の車の中でも、買い物時でも会話をもっともっと楽しんでください。